



新年を迎えて

住職
若松
隆英

檀信徒の皆様、良いお正月をおむかえの事とお喜び申し上げます。朝日寺におきましては平成十年から建設しております庫裡が、昨年三月に完成いたしました



新築された庫裡

氣（現オムロン）の創造者、立石真馬さんという方の座右の銘は、「人をもつとも幸せにすることの出来る人間がもつとも幸せになれる人間である。」という事でした。ちょっととした小さな事でも、人のためになる事をつみかさねて、充実した幸せな日々を過ごしたいのです。

た。さらにに統いて客殿西側に物置・トイレを新設し十月には全ての工事を終える事ができました。新しい世紀を改築なつた新建物で迎えられます事、ひとえに檀信徒の皆様のご協力のたまものです。あつく感謝申し上げます。

四月八日には完成を記念した形で土砂加持法会をもよおす予定です。これは七年に一度の行事で朝日寺檀信徒の総先祖供養ともいいうべきものです。法会にご参加いただき、ご先祖の供養とともに寺の完成を祝つていただきたいと存じます。「なさけは人のためならず」ということわざがあります。ちよと考えると人に思いやりをかけると、かえってその人を

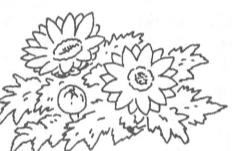
平成十三年度の計画ですが、本堂の改修（位牌堂の設置）、老朽建物（便所・物置）庫裡の改築等の竣工記念として落慶法会を、七年毎に行われている土砂加持法会と兼ねて、四月八日に行う予定にしております。（結衆寺院住職による読経ご詠歌、稚児行列、もち投げ、お接待等）色々な行事が行われます。賑やかな行事にしたいと思います。皆様、当日はお繰り合わせの上、多数のお参りをお待ちしております。

尚、春の一日旅行につきましても五月中旬頃にと検討しております。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸を祈念致しましてご挨拶いたします。

明けましてお目出とうござります。謹
しんで新年のご挨拶を申し上げます。平
素はお寺の事につきましては何かとご協
力戴きましてありがとうございます。ご
承知のようく庫裡の工事も終り、客殿の
西側に便所・物置そして別殿の二階をと
り、寄棟の屋根に改築して、計画してお
りました建物の工事は全部完了致しまし
た。最後に本堂の前（南）の堀の塗りか
えと皆さんから戴いた寄付石の整備をし
てある所でございます。皆様方から戴い
た寄付金や支出につきましては別途報告
致します。

発行者 英会堂松隆若総代 印刷者 奥山印



年頭に

島岡篤 総代長

御指導の賜物だと思っております。紙上をかりましてお知らせしておきます。

二十世紀も終りいよ／＼二十一世紀の始まりですが、二十世紀を振りかえって見ますと色々の出来事がございました。

それから、これは私達が月二回お稽古をしております御詠歌の事ですが、第二十五回目の中国ブロックの奉詠大会が、十一月十七・十八日の二日の間、玉野市の瀬戸内国際マリンホテルで行われました。今年は鳥取の地震等で何時もより参加者は少いとの事でした。それで朝日寺は大変な好成績を上げられました。団体の部で若奥様の四人組が一位になられ、又個人の部でも若奥様が一位になられました。今までにこんな快挙は始めてです。朝日寺と云えは、あ、あの御詠歌の上手なお寺とよく云われます。これも大奥様

した。今年は室戸、足摺方面の参拝ですので、一路高松高速を南国ICから最初二十九番札所国分十番札所善樂寺、五台山の上にあり一番札所竹林寺、そして二十八番日寺へ、ここは三百米程のつづら山道を歩き参拝し、お昼前に車中なり、次の札所迄は車で一時間程度で車中でお弁当を頂きました。次神峯寺へはタクシーに乗り替え途タンと云うミカンの木が植えられ険しい山道を、運転手さんの鮮やかに感心しながら参拝しました。十四番札所最御崎寺、室戸岬の南にあるお寺で、途中勤王の志士中岡慎太郎を祀る碑を眺めながら二十五番札所津照院そして二十六番札所金剛頂寺とお宿の宿高台にある国民宿舎「安到着しました。四国の中の端何

四国靈場巡りに 参加して

十二日の最終日の朝は六時から客殿に集まり清々しい気持でお勤めをさせて頂きました。前回の時は雨で灯台へ行けなかつたので運転手さんに案内して頂きました。花こそ無かつたものの、うつ蒼と覆いかぶさった椿の谷を抜け眼下に広がる大海原、眠気も一掃、満足感で一杯でした。展望台を廻りジョン万次郎の大きな像を眺め、幼くしてアメリカへ渡り苦し勞し、後故郷に帰り偉大な業績を残した万次郎にお別れし、今日の巡拝先三十九番札所延光寺、四十番観自在寺、お昼は

物のない太平洋の水平線に雲間から見え
る落日、まばゆいばかりに輝いていまし
た。各部屋に別れ食事を頂き今日の疲れ
を癒し眠りにつきました。

第二日は七時出发、禅師峰寺、雪跋
寺、とお参りし三十四番札所種間寺へ、
山門の近くで下車し、見上げる石段に息
をのむ思いでしたが、皆様とはげまし合
いながら思いのほか早く昇れた様です。
般若心経の終る頃、若い女性が手に持つ
た三味線を出し、石畳に正座して心にし
みる音色を奏で始めました。若い女性が一
人でこういう修業をなさると云う事は
何か御事情があるのかなと三味の音を後
にしながら、その方の道中の無事を祈ら
ずにはおれませんでした。次の札所三十三
五番清滻寺へはタクシーで山門近く迄乗
せて頂きました。昔の人は杖と共に何時
間もかけて参拝されたのにと、何かはづ
かしい思いでした。この日の昼食は海を
前にした三陽荘で頂き、八十八仏の道を
通り抜け三十六番札所へと、この石段も
陥しく行き交う人と挨拶をかわしながら
無事参拝致しました。次の札所岩木寺と
進み、今日の宿金剛福寺へ到着、東京か
ら来られた团体さんと一緒に食事をし、
お風呂では何年もの知り合いの如くお話
をする事が出来ました。

楽しかった事、お目出度い事数々ございましたが、私にとっては暗い、悲しい出来事です。それは第二次世界大戦です。これだけは忘れようにも忘れられない事です。人生の中で一番輝いている青春時代が丁度世界大戦の最中でした。女学校三年生で、学徒動員で、勉強は投げ打って工場へ出勤し「ほしがりません勝つまでは」と云つて、日夜唯國の為と一生懸命働き、終戦を迎へ、其の上私の一番大切な父まで戦地に送り出し、二度と日本をふむ事なく他界してしまい、本当にいろいろな事ばかりでした。



38番金剛福寺にて